

製品名: CaMKII β / γ ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07888**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:10000-1:20000
分子量	62kDa

抗原情報

遺伝子名	CAMK2B/CAMK2G CAMK2G; CAMK; CAMK-II; CAMKG; Calcium/calmodulin-dependent protein kinase type II
別名	subunit gamma; CaM kinase II subunit gamma; CaMK-II subunit gamma; CAMK2B; CAM2; CAMK2; CAMKB; Calcium/calmodulin-dependent protein kinase type II subunit bet
遺伝子 ID	818/816
SwissProt ID	Q13555/Q13554
免疫原	抗血清はヒト CaMK2 β / γ 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 509-558

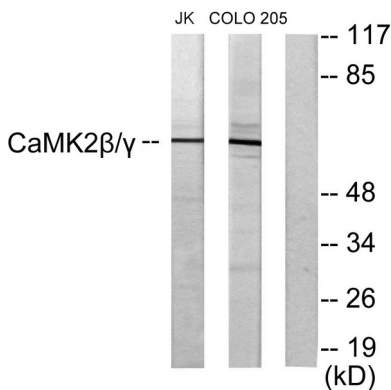
背景

この遺伝子産物は、セリン/スレオニンプロテインキナーゼファミリーおよび Ca(2+)/カルモジュリン依存性プロテインキナーゼサブファミリーに属する酵素の4つのサブユニットのうちの1つです。カルシウムシグナル伝達は、グルタミン酸作動性シナプスの可塑性のいくつかの側面において重要です。哺乳類細胞において、この酵素は α 、 β 、 γ 、 δ の4つの異なる鎖で構成されています。この遺伝子産物は γ 鎖です。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写産物が多数報告されているが、すべての変異体の全長は決定されていない。[RefSeq 提供、2011年3月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、酵素調節: CAMK2の自己リン酸化は、キナーゼ活性の調節において重要な役割を果たしている。、機能: CaM キナーゼ II (CAMK2) は、中枢神経系で主要なキナーゼであり、長期増強や神経伝達物質の放出に機能する可能性がある。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。CaMK サブファミリー。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。、サブユニット: CAMK2は、アルファ、ベータ、ガンマ、デルタの4つの異なる鎖で構成されています。異なるアイソフォームが組み合わさって、8 ~ 12個のサブユニットから構成されるホモまたはヘテロ多量体ホロ酵素が形成されます。

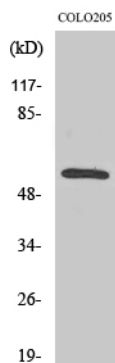
研究分野

ErbB_HER;カルシウム;卵母細胞減数分裂;WNT;WNT-T細胞長期増強;神経栄養因子;嗅覚伝達;GnRH;メラニン形成;神経膠腫;

画像データ



COLO205細胞およびJurkat細胞のライセートをCaMK2 beta/gamma抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



CaMKII β/γ ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析